

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

CEOメッセージ



カルロス ゴーン
日産自動車株式会社 社長兼最高経営責任者 (CEO)

世界をリードする自動車メーカーとして、日産には持続可能な社会の発展に貢献するという責任があります。私たちはこの責任を真摯に受け止めています。「人々の生活を豊かに」という日産の企業ビジョンは、単にビジョンというだけでなく、組織の中核を成す企業文化ともいえるべき重要なものであり、従業員一人ひとりの業務においても常に意識されています。

当社は資源の保護、安全・低燃費化技術の向上、社会貢献などさまざまな活動に取り組んでいますが、どんな活動においても、その目的は、経済的価値を創出し、事業を行うすべての市場で長期的な効果を生み出すことにあります。

そうした取り組みをさらに強化するため、日産のCSR活動を包括的に支える基盤として「ブルーシチズンシップ」を掲げています。従業員、株主、お客さま、そして地域社会全体と力を合わせて、より良い社会をつくり、すべての人々に持続可能なモビリティ社会を提供していくという取り組みです。

社内での活動に加え、日産は2004年から「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。また、「持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)」にも2001年以来、参加しています。

いまだ道半ばではありますが、持続可能な社会の発展に向けて、日産は着実に歩を進めています。本レポートにもあるように、特に環境活動の分野では目覚ましい進歩を遂げています。3世代目の中期環境行動計画にあたる「ニッサン・グリーンプログラム2016(NGP2016)」のもと、さまざまな規模の活動を進め、新技術を駆使しながら、事業活動によって生じる環境負荷の低減に努めています。21世紀初めに掲げた、新車のCO₂排出量を2050年までに2000年比で90%削減するという目標が揺らぐことはありません。

この目標を達成するため、日産は今後もゼロ・エミッション技術を推進し、自動車業界をリードしていきます。私たちは、早い段階からゼロ・エミッション技術に投資してきました。そして、今後も信念を持って、取り組んでいきます。この取り組みは日産に限らず自動車業界全体、ひいては世界にとって極めて重要なものと認識しています。

ゼロ・エミッション車普及の重要性はこれまで以上に高まっています。現在、世界中で約10億台のクルマが走っていますが、今後の人口・需要の増加に伴い、その数は2050年には2倍以上に増えるといわれています。CO₂排出の低減と持続可能な社会の発展は、喫緊の課題です。日産は、社会に資する解決策を見出すという強い決意のもと、引き続きパイオニアとして、ゼロ・エミッション技術の浸透に取り組んでいきます。これは単なる経営目標ではありません。現在の、そして将来の世代に対する私たちの責務なのです。

カルロス ゴーン
日産自動車株式会社
社長兼最高経営責任者 (CEO)